JR東日本ニュース

2025 年 11 月 11 日
東日本旅客鉄道株式会社

お客さまにより安全に安心してご利用いただける新幹線輸送を実現します
～東北新幹線・上越新幹線の終電繰り上げで工事時間を確保します～

○JR 東日本グループは、「勇翔 2034」で掲げる“究極の安全”の実現のため、設備のリニューアル工事や地震対策工事などを現在進め、工事量が増加しています。一方で、工事の担い手は減少し続けており、生産年齢人口の減少などを踏まえると、今後もその確保は厳しい状況です。
○必要な工事をできるだけ早く、かつ着実に進めるため、機械化を加速させるとともに、2024 年春には上越新幹線において、全体工事量の約 20%にあたる区間で、作業時間の確保を目的として終電を繰り上げることにより、施工効率は約 10%向上させることができました。
○今回、より広いエリアで、作業時間を確保するため、2026 年春から東北新幹線 東京～盛岡間および上越新幹線 大宮～越後湯沢間の下りの終電を 20 分程度繰り上げます。お客さまにより安全に安心してご利用いただける新幹線輸送を実現するため、ご理解とご協力をお願いいたします。

1．新幹線の安全性向上のための工事の課題

新幹線では、お客さまに安全にご利用いただくため、日々の夜間工事において、レールや架線の交換、トンネルの修繕など、設備のリニューアル工事を実施しています。

これに並行して、「勇翔 2034」で掲げる“究極の安全”の実現に向けて、大規模地震のリスクに備えるため、線路で 約 2000km、トンネルで 約 30km、電柱で 約 2 万本の対策工事を進めており、全体の工事の約 20%が地震対策工事となっています。

一方で、鉄道工事は屋外での夜間労働となる性質から、軌道工事従事員は、この 10 年間で約 20%減少し、生産年齢人口の減少を踏まえると、今後も担い手の確保が厳しい状況であります。そのため、設備のリニューアルにより、日々の安全安定輸送の確保を行いながら、大規模地震に備えた対策工事を両立させることが課題となっています。

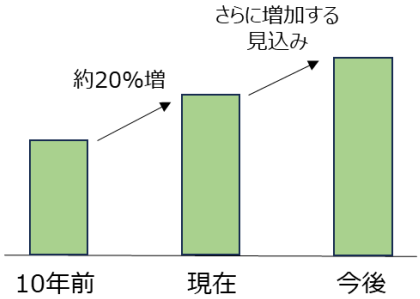


図 1：新幹線の工事量の推移

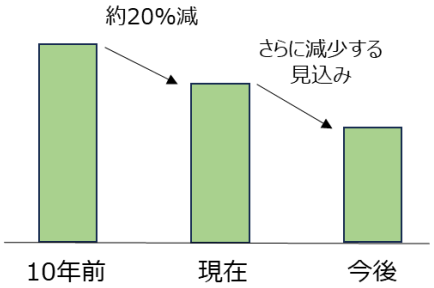


図 2：軌道工事従事員の推移

２．2024 年春の上越新幹線における終電繰り上げの効果

2024 年春に、全体工事量の約 20%の区間である上越新幹線 大宮～高崎間および越後湯沢～新潟間において、終電を 20 分繰り上げました。終電繰り上げによる作業時間の拡大で、1 日の工事量の増加などの効果が得られ、この区間での施工効率を、約 10%向上させることができました。

３．2026 年春の終電繰り上げの実施

当社の新幹線で最も経年の古い 1982 年頃に開業した東北新幹線 東京～盛岡間および上越新幹線 大宮～新潟間は、40 年以上が経過し、工事量は全体の 80%以上を占めています。

つきましては、この区間の下りの終電について、現在は東京発時刻で、那須塩原行き 22 時 44 分、仙台行き 21 時 44 分、盛岡行き 20 時 20 分、越後湯沢行き 22 時 28 分であるところ、10～20 分程度繰り上げて、作業時間を 20 分程度拡大することで、機械化と併せて、設備のリニューアル工事や地震対策工事などをできる限り早く、かつ着実に推進します。

お客さまにはご不便をおかけいたしますが、ご利用状況を踏まえた終電前の臨時列車の設定などにより、できるだけご不便を軽減すべく、検討を進めております。

将来にわたり、より安全に安心してご利用いただける新幹線輸送を実現することで、お客さまのご期待に応えて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※2024 年春に終電を繰り上げた上越新幹線高崎行きおよび新潟行きの終電時刻に変更はありません。
※ダイヤの見直し時期は、2026 年春を予定しております。終電繰り上げを含めた内容の詳細は、決まり次第お知らせします。

図 3：新幹線区間別開業年度

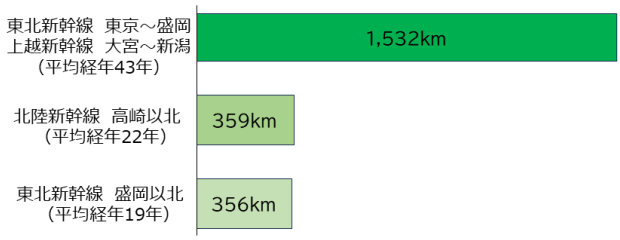


図4：区間別軌道延長

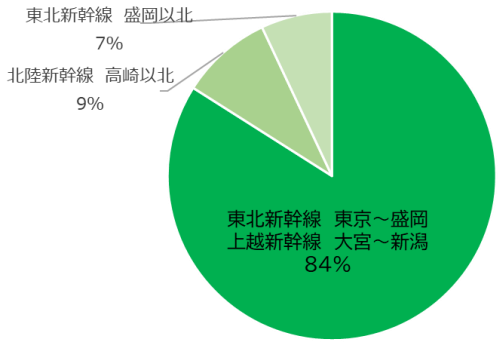


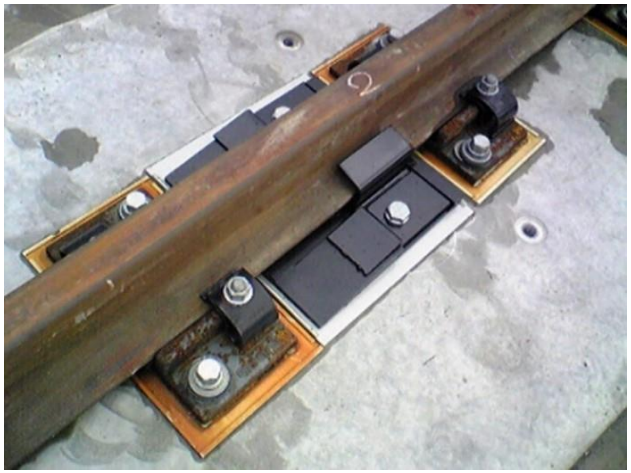
図5：区間別工事割合

新幹線における主な地震対策

別紙1

線路の地震対策（レール転倒防止）

新潟県中越地震での脱線



レール転倒防止装置の設置

トンネルの地震対策（剥落隆起防止）

新潟県中越地震でのトンネル剥落

トンネルへのロックボルト施工

電柱の地震対策（折損防止）

福島県沖地震での電柱傾斜

鋼管製の電柱への取り替え

新幹線における主な工事の機械化

別紙2

レール交換
（10年間で500kmの交換を予定）
※2016年度導入

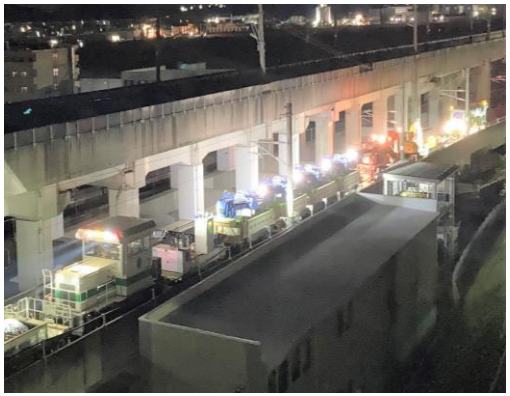
道床バラスト交換
（10年間で30kmの交換を予定）
※2016年度導入

道床つき固め
（10年間で300kmの整備を予定）
※2020年度増備

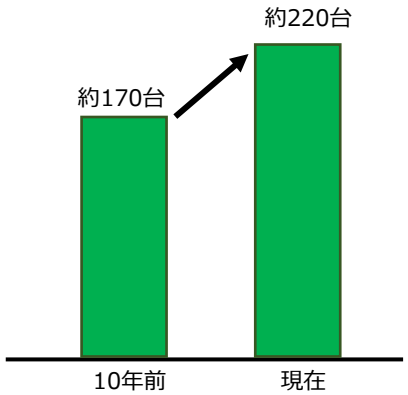
架線改良
（10年間で800kmの施工を予定）
※2023年度増備

電柱耐震
（2033年度までに8000本の施工を予定）
※2022年度導入

トンネル耐震
（2033年度までに30kmの施工を予定）
※2020年度増備



保守基地から出発する保守用車群



新幹線の大型機械（保守用車）保有台数